# 沖縄キリスト教学院大学

# 2025年度　卒業時満足度調査

# 結果報告書

2026年3月

IR センター

はじめに

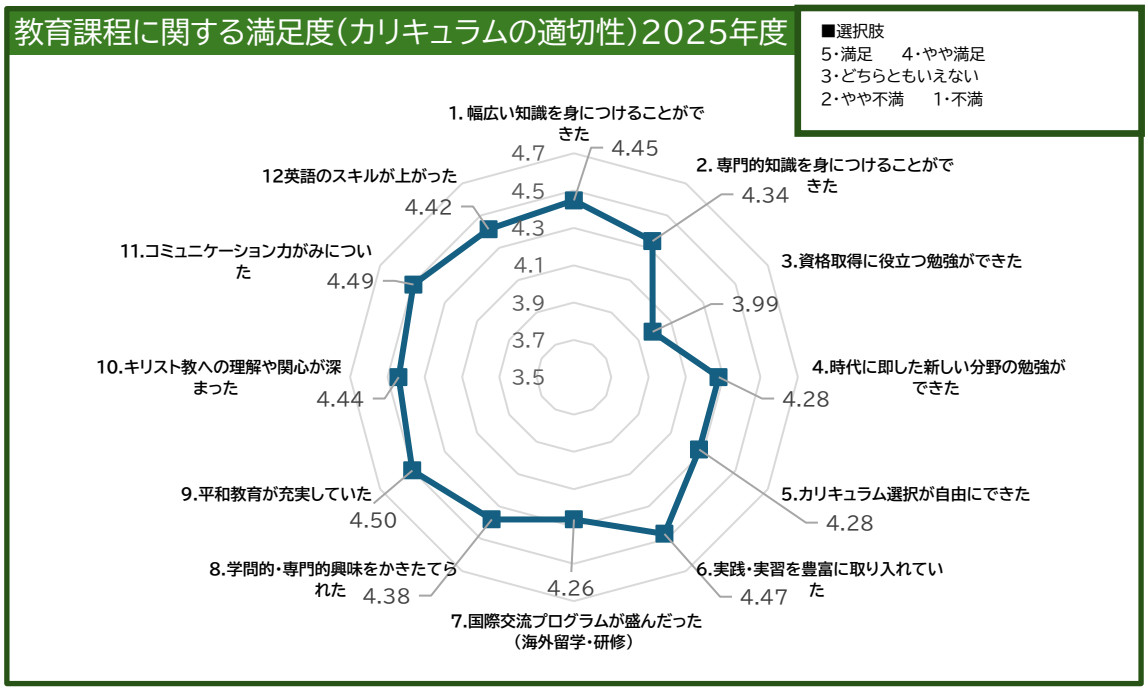
本調査は、2025 年度の卒業生を対象とし、卒業時点における本学に対する満足度の把握を目的として実施し、アンケート回答を集計したものである。主な質問は「教育課程に関する満足度（カリキュラムの適切性）」、「施設・設備・制度に関する満足度」「学生生活に関する満足度」の視点から設けている。これら質問は従前の同調査に準拠しているが、現状に即した内容とすべく、一部を削除・整理した。さらに、卒業生が本学に対して持っている印象を明確にするため、今年度から「総合的な満足度」に関する質問として、「入学して良かったか」「本学を後輩に勧めたいか」を新たに追加した。

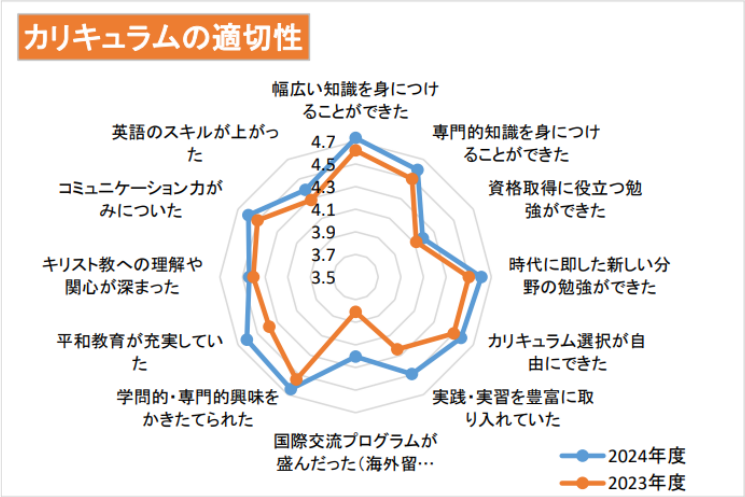
また、昨年度まで示していた質問「一番学びの大きかったこと」「早くに知っておきたかったことやつまずきを感じたこと」に対する学生記述回答のテキストマイニングの結果や、「学修成果の自己評価と実際の成績の関連」に関する散布図については、学内での参照実績が少なかったことから、今回から掲載を取りやめることとした。ただし、学生記述回答詳細については学内で共有し、フィードバックに活用する。

なお、従来本調査は「学生満足度調査」または「満足度調査」と呼称していたが、調査対象を明確にすべく、今年度から「卒業時満足度調査」に改称した。

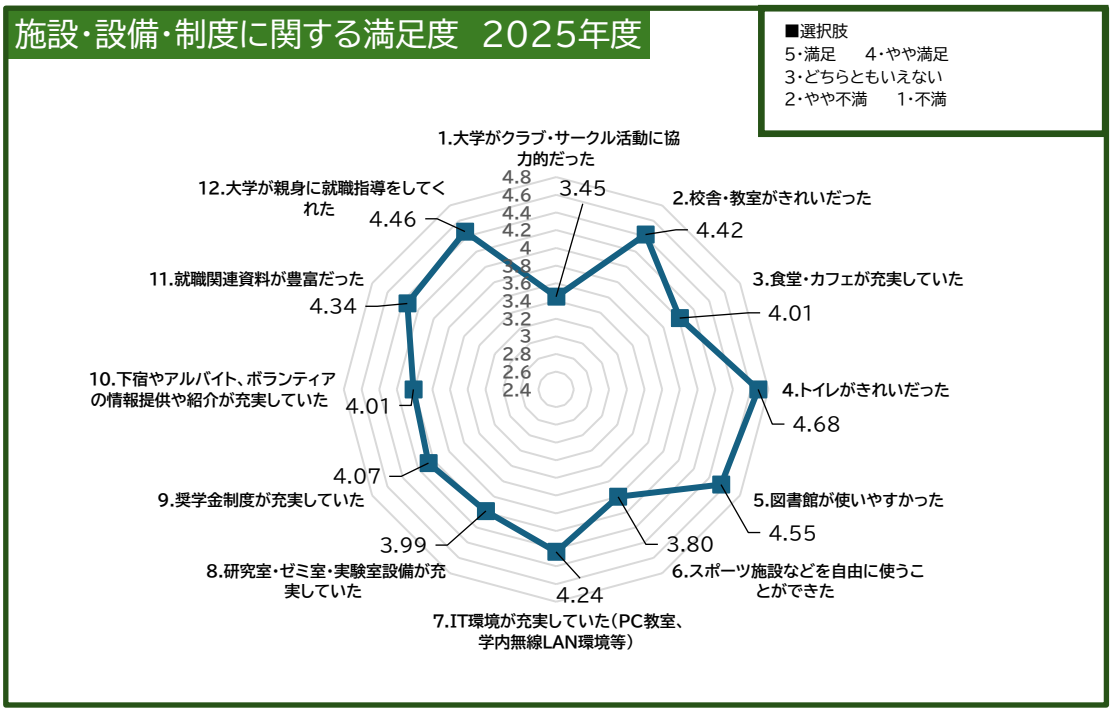
| | |
|---|---|
| 調査対象学科 | 人文学部　英語コミュニケーション学科 |
| 調査期間 | 2026 年 1 月 5 日(月)～1 月 30 日(金) |
| 調査対象者数 | 87 人　※今年度卒業者数 |
| 回答者数 | 76 人 |
| 回答率 | 87.4%(昨年度比 5.5 ポイント増)　　昨年度回答率　81.9% |

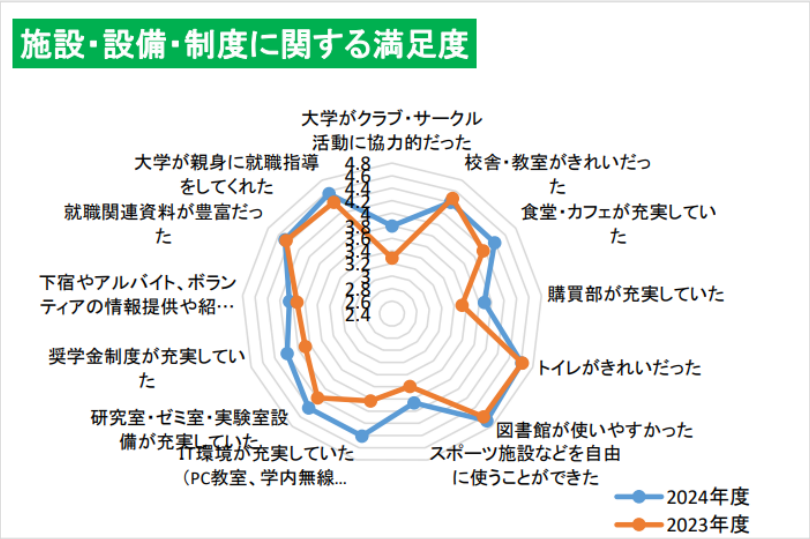
【カテゴリ別満足度】




昨年度までの設問内容およびその順序に変更はない。2025 年度は 2024 年度と比較して、「6. 実践・実習を豊富に取り入れていた」「10. キリスト教への理解や関心が深まった」「12. 英語のスキルが上がった」の各項目については横ばいの結果となった。また、「7. 国際交流プログラムが盛んだった(海外留学・研修)」については微増となっている。一方で、「9. 平和教育が充実していた」「11. コミュニケーション力がみについた」については微減となり、加えて、「1. 幅広い知識を身につけることができた」「2. 専門的知識を身につけることができた」「3. 資格取得に役立つ勉強ができた」「4. 時代に即した新しい分野の勉強ができた」「5. カリキュラム選択が自由にできた」「8. 学問的・専門的興味をかきたてられた」の各項目では、スコアの低下が確認された。とりわけ、学修内容や教育の質・魅力に直接関わる項目において減少傾向が見られた点については、今後の教育課程や授業方法、学生への支援体制のあり方を点検する必要性が示唆される。一方で、国際交流分野については、海外研修の再稼働や海外協定校からの交換留学生受け入れ等、回復・改善の兆しが見られることから、引き続きその取り組みを継続・発展させることが期待される。総じて、今年度は一部項目で改善が見られながらも、多くの設問において横ばいまたは低下傾向が確認される結果となった。今後は、課題の要因分析を進めるとともに、具体的な改善策を講じていくことが求められる。

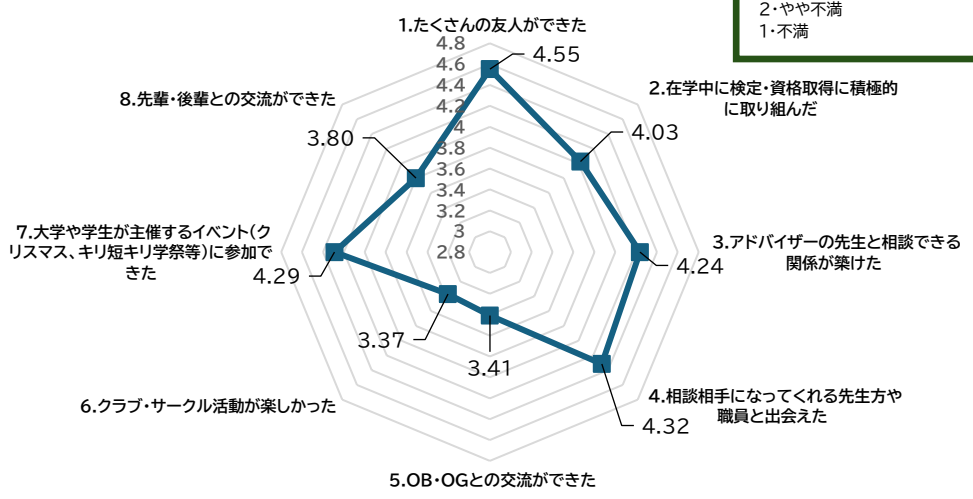



昨年度までは 13 項目で構成されていたが、現状に即した見直しを行い、今年度から「購買部が充実していた」を削除し、調査項目は 12 項目とした。2025 年度の結果を確認すると、「校舎・教室がきれいだった」「トイレがきれいだった」「下宿やアルバイト、ボランティアの情報提供や紹介が充実していた」は前年度と比較して横ばいとなった。一方、「図書館が使いやすかった」「スポーツ施設などを自由に使うことができた」「IT 環境が充実していた」「奨学金制度が充実していた」「就職関連資料が豊富だった」「大学が親身に就職指導をしてくれた」の各項目では微減が確認された。また、「大学がクラブ・サークル活動に協力的だった」「食堂・カフェが充実していた」「研究室・ゼミ室・実験室設備が充実していた」について目立つ減少となっている。全体として横ばいから減少傾向の項目が多く、評価低下の要因分析と、学生支援体制や学修・生活環境の改善に向けた取り組みが一層求められる結果となっている。

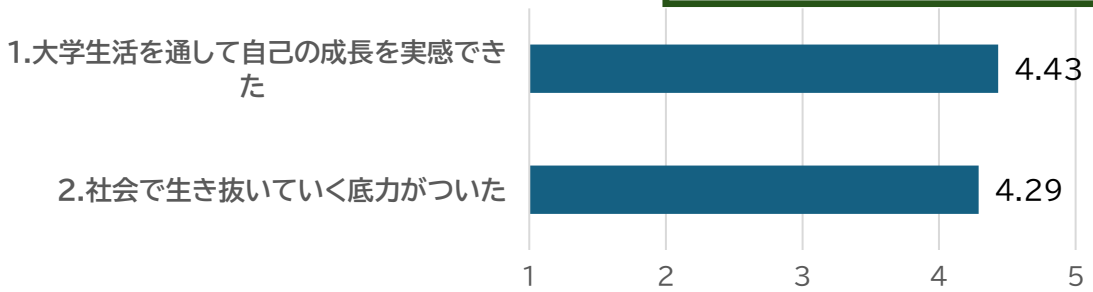
## 大学生活に関する満足度1　2025年度

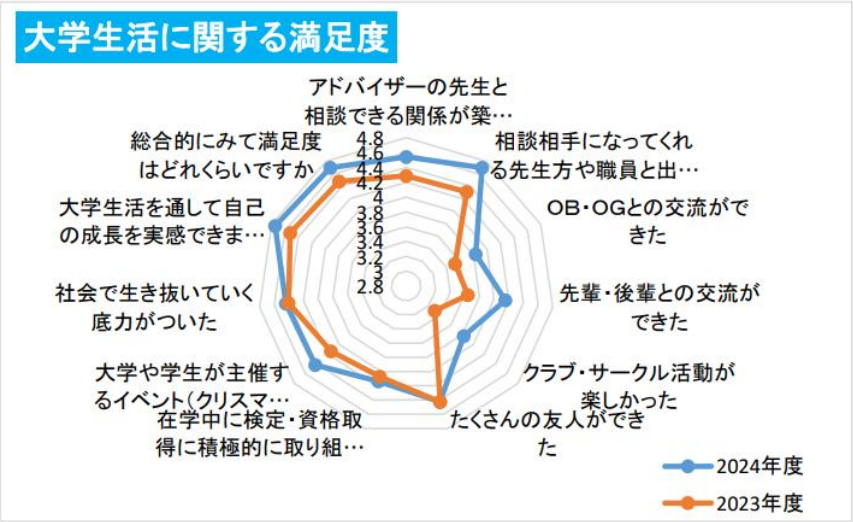
■選択肢（表は平均値）
5・満足
4・やや満足
3・どちらともいえない
2・やや不満
1・不満




## 大学生活に関する満足度2　2025年度

■選択肢
5・強くそう思う　4・そう思う　3・どちらともいえない
2・思わない　　1・全くそう思わない



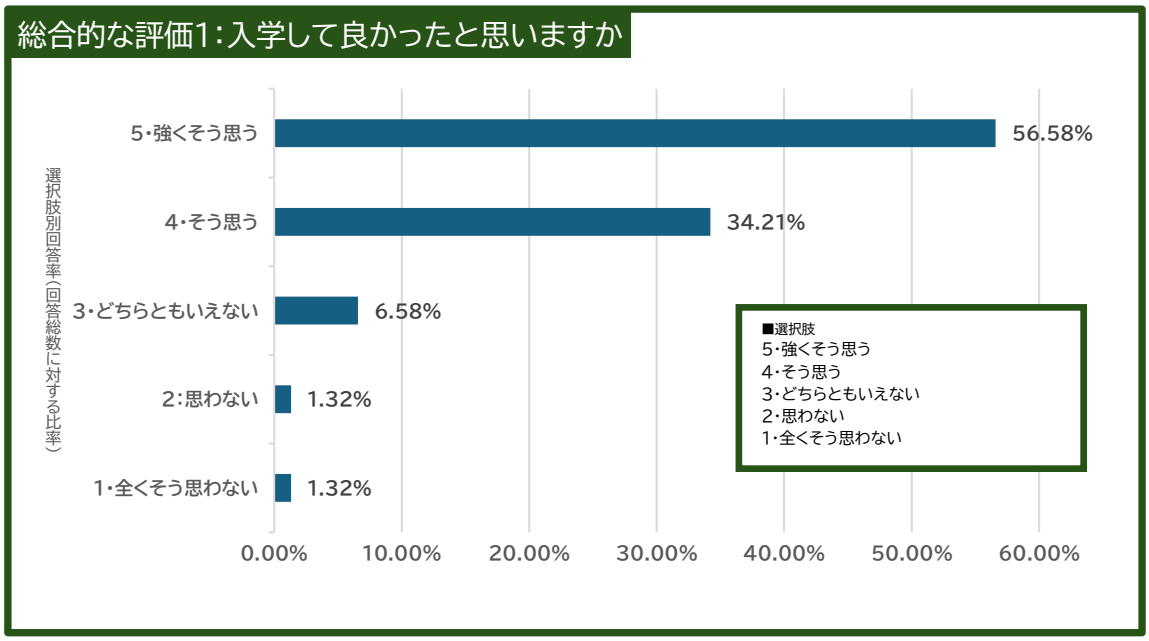
「大学生活に関する満足度」については、昨年度の調査構成から大きな改定を行った。具体的には、質問の順番の見直しおよび質問文言の微調整を行うとともに、回答の選択肢文言に応じてグラフを分割した。「大学生活に関する満足度 1(以下、満足度 1)」では回答選択肢を「満足～不満」とし、「大学生活に関する満足度 2(以下、満足度 2)」では「強くそう思う～全くそう思わない」とし、項目が2つしかなく、チャート図が成立しないことから、棒グラフを用いた。なお、詳細についてはグラフの選択肢表示を参照されたい。また、昨年度まで設定していた設問「総合的にみて満足度はどれくらいですか」については、「総合的な評価」を新設したため、今年度から削除した。

2025 年度の結果を見ると、「(満足度 1)1.たくさんの友人ができた」は前年度と比較して増加が確認された。一方、「(満足度 1)2.在学中に検定・資格取得に積極的に取り組んだ」「(満足度 1)3.アドバイザーの先生と相談できる関係が築けた」「(満足度 1)4.相談相手になってくれる先生方や職員と出会えた」「(満足度 1)5.OB・OG との交流ができた」「(満足度 1)6.クラブ・サークル活動が楽しかった」「(満足度 1)8.先輩・後輩との交流ができた」、さらに「(満足度 2)1.大学生活を通して自己の成長を実感できた」については、前年度と比べ減少が見られ、特に一部項目では低下が目立つ結果となった。また、「(満足度 1)7.大学や学生が主催するイベントに参加できた」は微減となった。一方、「(満足度 2)2.社会で生き抜いていく底力がついた」は横ばいで推移している。

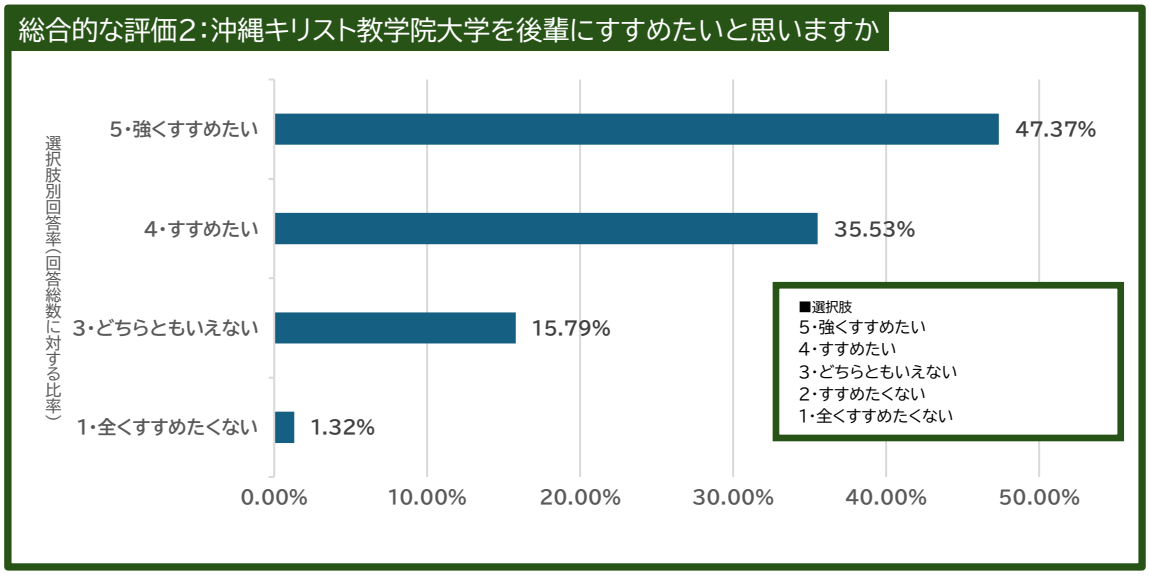
減少が目立つ項目の多くは、学生同士や教職員との関係性、学生生活の充実度に関わる内容であり、今後は推移を継続的に確認するとともに、改善に向けた具体的な検討とフィードバックを行っていく必要がある。

## 【総合的な評価】※2025 年度より新規追加質問

本質問は今年度調査から新設し、「入学して良かったか」「本学を後輩にすすめたいか」という項目を卒業生に投げかけ、卒業生の満足度をより詳細に把握するべく整えた構成とした。




質問「総合的な評価 1：入学して良かったと思いますか」では、「5・強くそう思う」と回答した学生が 56.58%と半数を超えており、「4・そう思う」の 34.21%と合わせると、90.79%となる。約 9 割の回答者が、入学したことについて肯定的に受け止めていることがうかがえる。一方で、「3・どちらともいえない」と回答した学生は 6.58%にとどまっている。また、「2・思わない」「1・全くそう思わない」との回答はそれぞれ 1.32%と少数であり、否定的な評価は限定的である。本報告書 P1 に示すとおり、今回の回収率は 87.4%と高水準であったことから、本質問結果は対象学生全体の意識を十分に反映したものと考えられる。以上より、総合的に見て、多くの学生が本学への入学に対して高い満足感を有していることが明らかとなった。



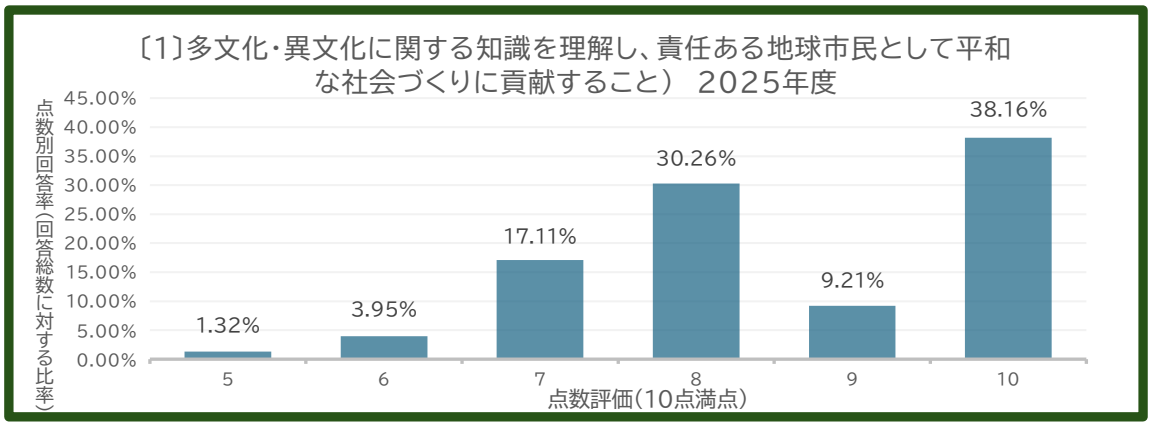

質問「総合的な評価 2：沖縄キリスト教学院大学を後輩にすすめたいと思いますか」では、「強くすすめたい」が 47.37%、「すすめたい」が 35.53%となり、両者を合わせると 82.90%と、8 割を超える卒業生が本学を後輩にすすめたいと評価していることが明らかとなった。多くの卒業生が、本学での学びや学生生活に対して肯定的な印象を有していることがうかがえる。

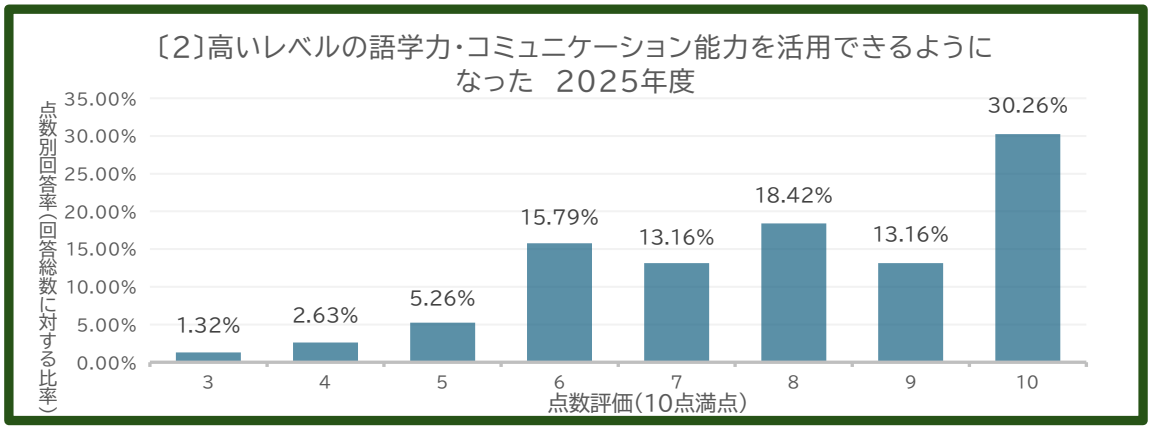
自由記述をみると、その背景として、「教職員との距離が近く、質問や相談がしやすい」「学生数が少ないため一人ひとりに目が行き届き、安心して学ぶことができた」「友人に恵まれ、楽しく充実した学生生活を送ることができた」といった声が多く寄せられている。また、「ネイティブ教員との交流を通じて実践的な英語力やコミュニケーション能力が身についた」「人前で話す力が養われ、自分に自信がついた」など、学修成果や成長実感に言及する意見も多数確認された。加えて、校舎・図書館・カフェ等の施設環境や、アットホームで居心地の良い学内の雰囲気を評価する声もみられ、本学の少人数教育や人的環境が強みとして認識されていることが確認できる。

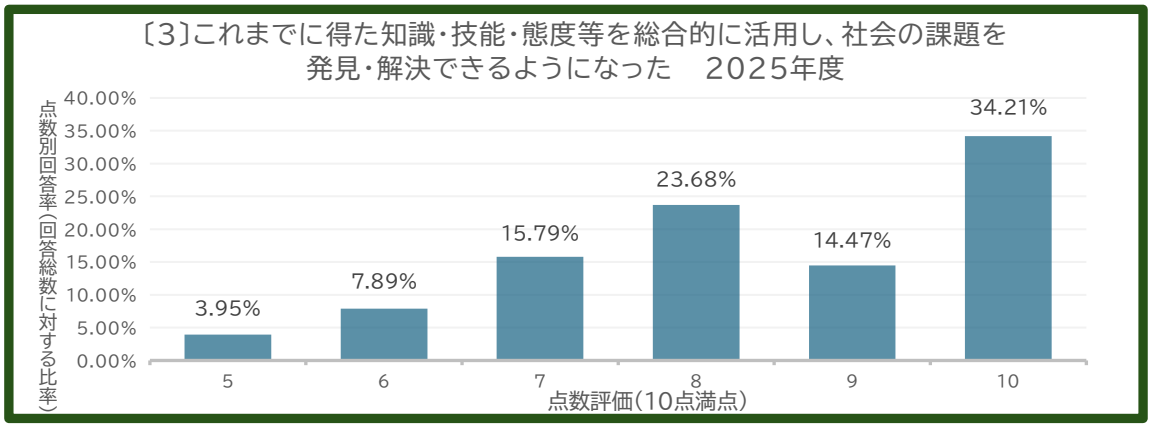
一方で、「どちらともいえない」とする回答が 15.79%みられ、「全くすすめたくない」との回答も 1.32%存在した。これらの自由記述では、「授業内容や評価方法が分かりにくかった」「必修科目や課題が多く、学修負担が大きいと感じた」「選択できる授業やサークル活動の情報が十分ではなかった」「学びや学生生活の充実度には個人差がある」といった指摘が挙げられている。また、「目的意識が明確であればすすめたいが、目標が定まっていない場合は慎重に考える必要がある」との意見も見られた。

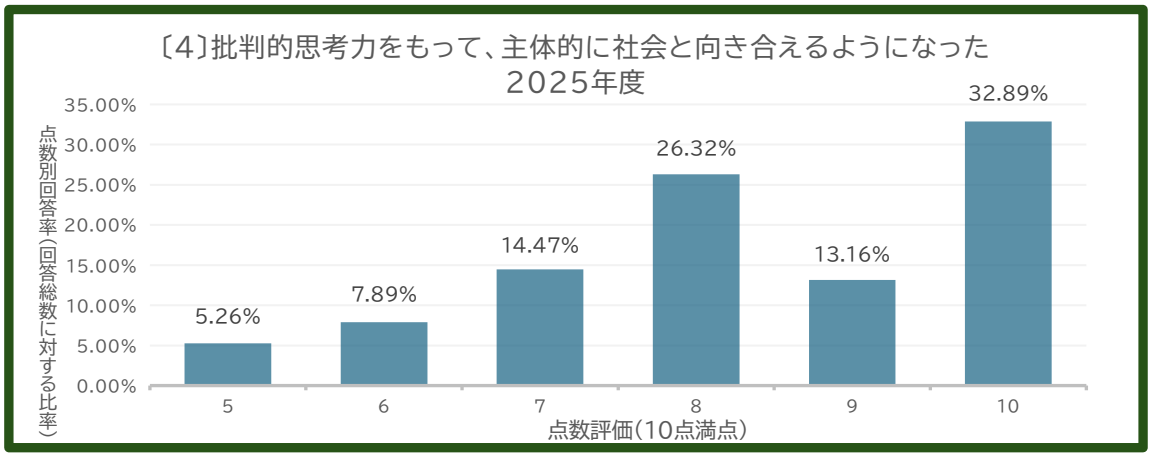
以上の結果から、本学は教職員との距離の近さ、少人数教育による丁寧な指導、実践的な学びといった点で高く評価されている一方、学修負担の感じ方や教育内容に対する事前の期待とのギャップについては、今後も継続的に把握する必要がある。今後は、こうした声を踏まえ、入学前後の情報提供の充実や学修・生活面での支援を強化することで、より多くの学生が納得感をもって本学を後輩にすすめられる環境づくりが求められる。

【学修成果/学習成果　の自己評価】

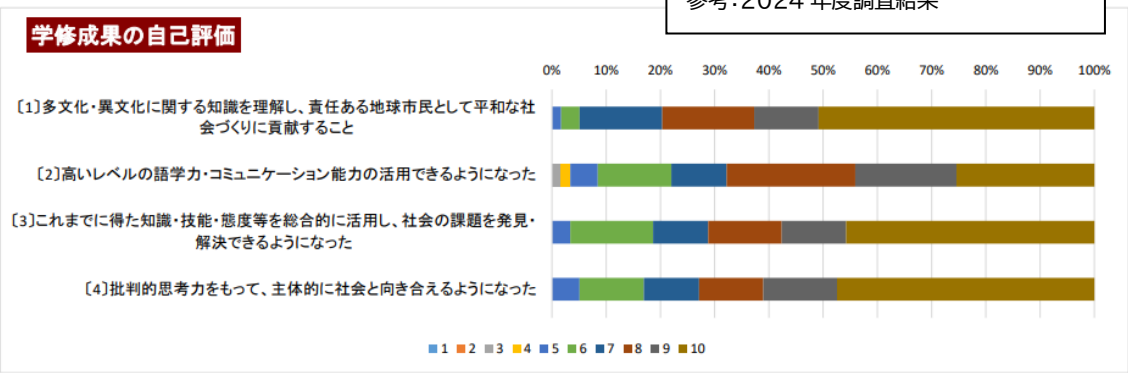


参考:2024 年度調査結果




今回の分析では、「8 点～10 点」を高評価、「6 点～7 点」を良評価、「5 点」を平均的評価、「1 点～4 点」を低評価として区分した。

「〔1〕多文化・異文化に関する知識を理解し、責任ある地球市民として平和な社会づくりに貢献すること」では、高評価の回答率は 77.63%に達しており、良評価が 21.06%、平均的評価が 1.32%、低評価は見られなかった。高評価と良評価の合計は 98.69%となり、ほぼすべての学生が本項目について肯定的に自己評価している結果となった。

「〔2〕高いレベルの語学力・コミュニケーション能力を活用できるようになった」では、高評価が 61.84%、良評価が 28.95%、平均的評価が 5.26%、低評価が 3.95%であった。高評価と良評価の合計は 90.79%であり、多くの学生が語学力およびコミュニケーション能力の向上を実感していることがうかがえる。

「〔3〕これまでに得た知識・技能・態度等を総合的に活用し、社会の課題を発見・解決できるようになった」では、高評価が 72.36%、良評価が 23.68%、平均的評価が 3.95%、低評価は認められなかった。高評価と良評価の合計は 96.04%と高く、学修成果の統合的活用について多くの学生が高い達成感を示している。

「〔4〕批判的思考力をもって、主体的に社会と向き合えるようになった」では、高評価が 72.37%、良評価が 22.36%、平均的評価が 5.26%、低評価は見られなかった。高評価と良評価の合計は 94.73%となり、主体性や批判的思考力の涵養についても概ね良好な結果が得られている。

以上の結果から、すべての項目において「良評価～高評価」が 9 割前後、あるいはそれ以上を占めており、「学修成果／学習成果」の達成度について、学生の自己評価は総じて極めて高い水準にあることが確認された。昨年度までの集計結果と比較しても、大きな傾向の変化は見られず、安定的かつ継続的な成果が認識されている状況であるといえる。